

令和5年度東京海洋大学海洋生命科学部・海洋資源環境学部
私費外国人留学生特別入試学力検査問題《日本語》
問題用紙(1/2)

※ 答えはすべて解答用紙に書きなさい

- 1 以下の文章を読んで、()の中に適当な助詞を入れなさい。(配点10点)

地球上()起こる様々な大気現象()太陽()受け取ったエネルギーを源としている。
そのエネルギー()流れに関与する地球の全システムは気候系()呼ばれる。

- 2 解答欄の()の単語を、文に合うように形を変えて、あるいは形を変えずに、____の上書きなさい。(配点10点)

2022年9月、日本銀行は、金融危機の最中に円安が_____1998年以来、24年ぶりに円買い介入を_____。
(進む) (行う)

この介入は、日本政府がこれ以上の円安を_____という立場を示すためのものだった。
(望む)

しかし、短期間は効果が_____ものの、日本円は再び下落を続け、1ドル=150円台にまで値下がりした。
(ある)

なお、9月の為替介入額は3兆円弱と_____ている。
(報じる)

- 3 次の文章は、『「家族の幸せ」の経済学』という本の「費用の節約と分業の利益とリスクの分かち合い」という部分です。日本の状況に関するこの文章を読み、問1から問7に答えなさい。(配点80点)

この節では、結婚が持つ経済的な要素に注目し、そこにはどんなメリットがあるのか考えてみましょう。ここで考える「結婚」とは、法的な婚姻関係に①(ア 基づき、イ 限らず、ウ 反して、エ 即して)、事実婚なども広く含んでいます。夫婦が助け合うことによってさまざまなメリットが生じるというのが経済学的な結婚観なのですが、こうしたものの見方をすると、人々の結婚行動がよく見えてきますし、近年の非婚化・晩婚化についての理解の大きな②(ア 助け、イ 妨げ、ウ 前提、エ 相違)になります。

まず考えられる結婚の経済的なメリットは、「費用の節約」です。二人でバラバラにアパートを借りるよりも、同じ家に住んでしまえば、より安い家賃で、広くカイテキな部屋に住むことが可能になります。同じ部屋で過ごすことで、光熱費の節約にもつながりますし、自炊する場合には、コウリツ的に食材を使うことができます。一人分だけを自炊するのはかえってお金がかかりますからね。次に考えられるのは、「分業の利益」と呼ばれるものです。一人で暮らすならば、得意であろうが苦手であろうが、仕事とすべての家事を一人でこなさなければなりません。しかし、二人で暮らすならば、自分が得意なものを相手の分までやる代わりに、相手には自分の苦手な作業をやって③(ア もらう、イ あげる、ウ くれる、エ やる)こともできます。たとえば、料理が得意であれば、二人分の料理を引き受ける。一方で苦手な後片付けやソウジ・洗濯は相手にやってもらう。仮に、結婚相手が料理は苦手だけれど、その代わりに片付けやソウジ・洗濯が苦にならない人ならば、この二人の組み合わせはとてうまくいくでしょう。かつては、家庭における「分業の利益」はもっとはっきりとした形で現れていました。夫は外で働き、妻は専業主婦として家事と子育てのすべてを引き受けるというものです。かつての男性の賃金は、女性よりもはるかに高かったため、こうした夫婦間の分業のあり方には十分な経済的合理性があったのです。現在では、男女の収入格差が次第に小さくなってきているため、こうした「分業の利益」も小さくなってきていますが、それでも、夫婦がうまく協力することから「分業の利益」が生まれるという原則自体は変わりありません。

さらなる結婚の経済的なメリットは、「リスクの分かち合い」です。一生懸命働いていても、勤め先の業績が悪化して給料が下がったり、時には仕事を失ってしまったたりすることも決して珍しくはありません。また、病気や怪我などによって、働けなくなることもあるでしょう。独身者ならば、こうしたときの経済的な支えは自分の貯金ぐらいしかありません。独身者は、センザイ的には大きな収入リスクに直面している④(ア の、イ もの、ウ から、エ こと)です。一方、結婚している夫婦ならば、お互いを助け合うことで、こうしたリスクを分かち合い、乗り越えることができます。一人のカセぎが減ってしまっても、もう一人が新たに働きに出たり、副業を始めるなどして、夫婦全体の収入が大きく落ち込まないようにすることで、家計を支えることができます。

(山口慎太郎著『「家族の幸せ」の経済学』、光文社新書、2019年より一部改)

令和5年度東京海洋大学海洋生命科学部・海洋資源環境学部
私費外国人留学生特別入試学力検査問題 《日本語》
問題用紙 (2 / 2)

問1 次の①から⑥について、文章の内容と合うものには(O)、合わないものには(X)を書きなさい。 (配点12点)

- ① 日本では近年、非婚化・晩婚化が起こっている。
- ② 日本の制度により、夫婦が同じ家に住むと家賃が安くなるため、「費用の節約」ができる。
- ③ 「分業の利益」があるため、日本では昔から夫婦で家事や育児を分担するのが一般的であった。
- ④ 現在は、男女の収入格差が少なくなっているため、「分業の利益」という原則が当てはまらなくなっている。
- ⑤ 結婚している夫婦は、共働きがほとんどであるため、失業によって生活できなくなる「リスクの分かち合い」ができる。
- ⑥ 結婚には、経済的な観点から「費用の節約」、「分業の利益」、「リスクの分かち合い」というメリットが認められる。

問2 下線部__の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。 (配点10点)

問3 下線部.....のカタカナを漢字で書きなさい。 (配点10点)

問4 本文中の①から④について(ア イ ウ エ)の中で最も適当なものを一つ選びなさい。 (配点8点)

問5 下線部「かつては、家庭における「分業の利益」はもっとはっきりとした形で現れていました」が意味することを、80字以上100字以内で説明しなさい。 (配点10点)

問6 下線部「リスクの分かち合い」とはどのようなことか。80字以上100字以内で説明しなさい。 (配点10点)

問7 本文は、主に結婚のメリットについて述べています。逆に結婚にはどんなデメリットがあるかを一つ考え、200字以上240字以内で論じなさい。

(配点20点)